

8月31日(金)18時20分より北秋田市民病院大会議室において「冠動脈CT再考」をテーマに開催され、平日の業務終了後でしたが会員38名の参加となりました。

最初に冠動脈CTについて会員発表を行い、撮影・画像処理等の基礎や応用と施設での取り組みや注意点などを発表していただき、最後にディスカッション形式を取りました。

質疑応答では次節講師佐藤先生より「検査時に看護師が必ず立入るメリットは、注入時の血管漏出・腫れはどのくらいあるのか、被ばくをどのように考えているか、検査時の心拍などの記録を行っているか」を問われました。技師討論だけでなく専門医指摘もあり、より良い意見交換が行われました。

学術講演では北秋田市民病院の循環器内科診療部長・佐藤誠先生より「冠動脈CTのセブンルール」と題して御講演頂きました。冠動脈CT専門医の診方ではIVRで判りにくい根幹部描出は大事なことや、急変時対応はCT室だからこそ技師に手伝ってほしい事、画像に対しては検査時の心拍などの記録を取り画像評価していくべきではと指摘されました。

冠動脈CTに創成期より関わっておられるとの事で我々目線で多岐に渡り講授頂きました。

また県北地域はPCI治療が行える施設は無く搬送に120分以上を有する地区である事、IVR検査・診断も限りがあるなか、冠動脈CT検査は患者さんに来院して頂いてワンストップで診断までたどり着く有効な検査であり「1*STOP CT」を表して県北地域の循環器疾患拾上げに大きな貢献をしていただきたいとの事でした。

循環器内科医師から冠動脈CTについて詳しく地域も考慮した講演は、県北技師会として貴重なシンポジウムとなりました。

文責 羽澤



